

16 . 泣いた王 (不詳)

昔々、遠い遠い所にハンサムな王と、美しい女王が住んでいました。王と女王と彼らのすばらしい王国は、神様に祝福され、そこは豊かな富と幸せな人々の土地でした。彼らの王宮は地上の最も美しい建物で、金と銀でおおわれた小塔があり、世界の最も大きなダイヤモンド、ルビー、真珠、サファイヤとエメラルドで飾られていました。王と女王は、毎年きまった日に、その地のすべての人を招待して、食べて、飲んで、踊って、歌いました。神々でさえ、いかにこの王国が立派で、いかに人々が幸せかを、彼ら自身で見て確かめるために、これらの盛大なお祝いに来たのです。

しかし、王は幸せではありませんでした。この世のすべての宝と富を持っていたにもかかわらず、ひとつ、王が持っていないものがありました。それは、全世界の、ほかの何よりも、彼がほしいと願っているものでした。それは、息子、彼の王座の後継者でした。王と女王が、この世を去ったら、だれかが王国を継承しなければなりません。しかし、たとえ彼らがどんなに努力しても、王と女王には、子どもが与えられませんでした。

毎日、悲しい王は、豪華な宮殿の暗い部屋に鍵をかけて、そして、何時間も祈りました。「神よ、と彼は祈りました。「私は親切な王で、私は女王と私の民に良い王です。なのになぜ、あなたは、私の死んだ後、私の良い仕事を続けてくれる息子を与えて、祝福してくださらないのですか。」しかし、神は依然として、追うには答えてくれませんでした。

しかし、ある夜、王が暗い部屋でひとりで祈っていると、輝く光が部屋に満ちて、王の目をくらましました。驚いた王が目を開けると、彼は、輝く美しい天使が、彼の前に現れていました。「神はあなたの祈りを聴かれた。王よ！」その輝く天使が笑いました。「ありがとう、ありがとう。」と王は言いました。そして、天使の前にひざまずきました。「本当に、」天使は続けました。「あなたはたくさんの祈りを言いました。だから、神は、フィリピンの神話と伝説 16 . 泣いた王

多くの息子を与えることで、祝福する、と決められました。」王は大喜びでした。「しかし、これらの息子は、」と天使は言いました。「人間の形をしていないでしょう。各々は、肉の冠を持ち、その生き物への尊敬を表します。各々の冠をかぶった息子は、大きな声で、夜明けを告げます。」

王は、彼の祈りが聴かれたことを大変喜んで、そして喜びの涙を流しました。ところが、王がきちんと美しい天使に礼を言う前に、目の前で空に消えて行きました。

すぐに、そのすばらしい日が来て、女王は最初の息子を産みました。誇らしく、幸せな王は、妻のそばで歴史的な時を待ちました。先ず、はじめに、王と女王は、息子が人間ではないことに驚きました。口にはくちばしがあり、足にはかぎづめがあり、羽毛で覆われ、頭のとっぺんに肉の冠がありました。しかし、彼の最初の驚きは、喜びによって、越えられました。ついに、彼らの死後、王国を支配する継承者ができたのです。その国全体は、この偉大な時を祝い、そして王は、地のすべての人を、すばらしいパーティーに招待し、彼の息子、おんどりの誕生を祝いました。

神は、更におんどりをかごに入れることを禁じ、それは、王国を自由に走り回り、各新しい日の夜明けを大きな声で宣言しました。毎年、同じ日に女王は新しいおんどりを産み、それらは頭の肉の冠で、王族であることを認められました。王と女王は、天からの贈り物に、大変喜びました。それは、彼らのすべての金や宝石に勝りました。ついに、王と女王は、十五羽の息子を持ち、それらは、王国を自由に歩き、人々に鳴き声で、毎日、朝太陽がのぼったことを宣言しました。

そして、王と女王が去って天に行く、悲しい日が来ました。王国の人々は、大変悲しみました。そして、王と女王の“息子たち”が、それから王国を治めることになりました。しかし、問題は、すべての王と女王の息子たちは、王国を支配する権利を持ち、王冠をかぶり、兄弟たちに、その地を出て行ってもらいたかったことです。そして、息子たちは、絶えずお互いに、昼も夜も、戦い、

議論しました。

だれも兄弟の冠を取ってやろうとは、しませんでした。彼らは羽ではばたき、かみそりのように鋭く切りつけ、くびの羽毛をおこし、戦い続けるのです。

今日、その王国は存在しません。羽に覆われた息子たちは、彼らの中で、だれが国を支配するかを、決めることができませんでした。事実、おんどりたちは、まだ王国について、今日においても、お互いに戦っているのです。